

令和元年度 文部科学省研究指定
「地域連携安全・安心推進事業」

未来に生きる力 ～今年度の取組から～

湯沢市立山田中学校

目 次

- 1 はじめに
- 2 山田中学校における学校安全(災害安全)に関する取組
- 3 避難所開設・炊き出し訓練について
- 4 被災地視察について
- 5 学校祭での被災地視察プレゼンテーション
- 6 避難訓練について
- 7 結びに

1 はじめに

秋田県の県南に位置し、
南の玄関口の市です。



湯沢市立山田中学校

- ◆所在地: 秋田県湯沢市山田字下館10
- ◆生徒数: 49名
- ◆職員数: 19名
- ◆特別支援学級を含む
全5学級の小規模校。

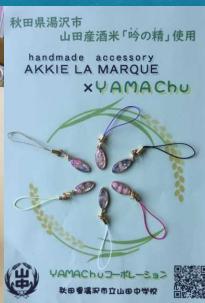


◎豊かな自然 恵まれた生活環境

<湯沢市立山田中学校 学校教育目標>

自分の花を咲かせよう

～温かな心をもち、磨き合い高め合う生徒の育成～



山田中学校の生徒たち…純朴で誠実 諸活動に真面目

2 山田中学校における 学校安全(災害安全)に関する取組

◆今年度、本校は文部科学省より、「地域連携安全・安心推進事業」の研究指定を受け、**学校安全の三領域（災害安全・生活安全・交通安全）**の**災害安全**に力を入れて取り組んできた。

◆災害安全教育を通して、育てたい資質・能力
<生徒に身に付けさせたい力>

- 災害を知り、適切な意思決定と行動選択ができる。
- 自他の命を尊重することができる。
- 地域社会の安全活動に進んで参加・協力し貢献できる。

◆文部科学省研究指定「地域連携安全・安心推進事業」概要

5月22日	避難所開設訓練・炊き出し訓練事前打ち合わせ
5月28日	避難訓練①・避難所開設訓練・炊き出し訓練の実施
7月 3日	第1回実践委員会
7月 4日	防災講話①「自分の命は自分で守るとはどういうことか」 講師：雄勝中央病院 名誉院長 中村正明 氏
7月12日	被災地視察事前学習
7月18・19日	被災地視察(岩手県釜石市・大槌町・山田町)
7月30日	防災講話②「K2 登頂」 講師：ドキュメンタリーフォトグラファー 小松由佳 氏
9月 9～13日	学校安全指導者養成研修(茨城県つくば市・中核教員)
10月20日	学校祭被災地視察プレゼンテーション
10月28日	避難訓練②
11月 1日	防災講話③「被災地視察の体験を今後の生き方にどう生かすか」 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 氏
	第2回実践委員会
11月20日	先進地視察(宮城県岩沼市・中核教員)
1月22日	避難訓練③
2月14日	先進地視察(東京都調布市・中核教員)
2月19日	第3回実践委員会

3 避難所開設訓練・炊き出し訓練について

(1)位置付け

「特別活動」として計画 時数配当 計3時間

(2)ねらい

- ・過去の震災の記憶を風化させることなく「自分の命は自分で守る」意識を高める。
- ・疑似体験を通じ地域の一員としての自覚を促し、判断力と実行力を育てる。

(3)対象（計150人以上）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・山田中学校 全校生徒 49名 | ・山田中学校全職員 19名 |
| ・山田小学校 4・5年生 44名 | ・山田地区老人クラブ 7名 |
| ・山田地区自治会 9名 | ・自立施設「松風」入所者 20名 |
| ・県自主防災アドバイザー 1名(講評) | ・学校支援地域コーディネーター 1名 |
| ・市総務課総合防災室 3名 | ・県教育委員会、市教育委員会 4名など |

(4)訓練の実際

◆非常食の準備・調達→県総務部総合防災課より

- ・アルファ米 炊き出しセット(おにぎり80個分)
- ・アルファ米 おかゆ 150食・パン 192缶(1缶2個入り)
- ・飲料水(500ml) 168本



◆全校生徒が5つの活動分かれて訓練

→施設班・食料班・物資班・情報班・総務班

避難場所設営

炊き出し

非常食配布

取材活動

総合案内



緊急時の設定ということで、生徒達はその場で初めて自分の役割を知り、活動した。

(5)生徒の感想より

◆ボランティアの人達を動かしているものは何か？

■责任感

- 助けた人の笑顔や感謝の言葉
- 「人の役に立ちたい」という思い
- 「助けたい」という気持ち
- ボランティアの人達を動かしているのは、感謝の気持ちだと思います。災害が起きた時に助けられたり助けたりするのは、地域の人だと思います。日頃の感謝の気持ちや、被災した時の悲しみや温かみから出る感情がボランティアの人を動かしていると思います。

■思いやりの心

- 「助け合い」「協力する」気持ち
- 「相手のことを思う」気持ち
- 「命を救いたい」という気持ち

■勇気

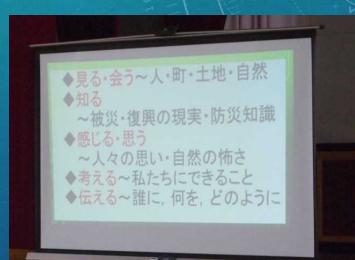


4 被災地視察について

(1)事前学習

被災地視察事前学習（全校）

- ◆被災地視察の目的・ねらい
- ◆主な日程・活動内容
- ◆準備について
- ◆事故防止について
- ◆質問・諸連絡



◆被災地視察の目的・ねらい

被災地視察
(岩手県釜石市・大槌町・山田町)
を通して…



被災された方々から震災当時の話を聞き、被災から復興までの歩みを知ることで、現地の人々の感情や行動に思いを寄せながら、防災に対する意識を高める。

そのために…

- ◆見る・会う～人・町・土地・自然
- ◆知る
～被災・復興の現実・防災知識
- ◆感じる・思う
～人々の思い・自然の怖さ
- ◆考える～私たちにできること
- ◆伝える～誰に、何を、どのように

(2)被災地視察の実際【7/18(木)～19(金)】



①私たちが訪問した地域

* 釜石市(かまいしし)・大槌町(おおつちちょう)・山田町(やまだまち)



* 全校生徒、職員と一緒に視察に同行していただいた保護者、地域の方々、小学校職員、県・市の教育委員会の先生方。

②主な見学・訪問場所～うのすまいトモス「いのちをつなぐ未来館」～

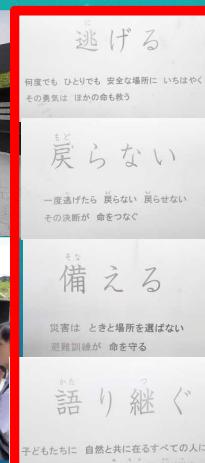
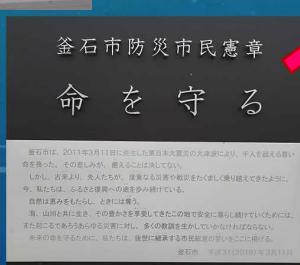


◆ガイドの菊池さん(女性)は当時中学生。震災 당시에自分が体験したことを詳しく語ってくれた。



◆話に聞き入る生徒たち。

②主な見学・訪問場所～うのすまいトモス「祈りのパーク」～



「逃げる」「戻らない」「備える」「語り継ぐ」

◆現在の鶴住居幼稚園・
鶴住居小学校・釜石東中学校



◆震災時に到達した、
津波の高さを伝える
黒色の壁



②主な見学・訪問場所～鯨と海の科学館～



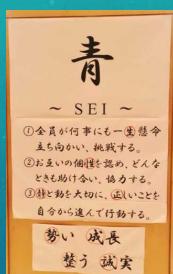
*施設や、道路のいたるところに見られる震災の記録。



*海側には、巨大防潮堤が続いていた。



②主な見学・訪問場所～山田町立山田中学校～



*佐々木慶信校長先生からは、山田町や中学校の紹介、震災時の町や人々の様子等をうかがった。校長先生のご自宅も被災され、当時の様子を伝える手紙を読む際には、涙で言葉を詰まらせる場面も…。



②主な見学・訪問場所～山田町立山田中学校～



* 山田町立山田中学校の生徒と初対面。263名の生徒が、温かく出迎えてくれた。交流会では、互いの学校紹介を行った。
山田町立山田中学校全校生徒による、勇壮な山田太鼓と、わだつみ節に魅了された。

②主な見学・訪問場所～山田町立山田中学校～



* 交流会を終えて中学校を後にする際、山田中学校全校生徒、先生方が外に出てきて笑顔で見送ってくれた。



②主な見学・訪問場所～マリンランド陸中～



* 1日目の最後は、震災語り部の方々とのポンファイヤー。海が見える営火場でグループごとに。



* ボンファイヤーに備えて腹ごしらえ。



②主な見学・訪問場所～マリンランド陸中～



リニアス線
開通記念
三陸鉄道

②主な見学・訪問場所～大槌町文化交流センター「おしゃっち」～

*「おしゃっち」の建っている場所は昔お寺で、寺子屋があったとのこと。平成30年6月に完成し、1年間の利用客は4万人に。



②主な見学・訪問場所～釜石駅周辺～



*2日目の最後は、取材活動。駅前は、ラグビーワールドカップの宣伝や、復興プロジェクトの広告が多く見られた。



②主な見学・訪問場所～釜石駅周辺～

* 取材に快く協力いただいた釜石市の方々。
貴重なお話をうかがうことができた。



(3)事後学習

①まとめの内容(以下のテーマから一つを選択)

- ◆自分が語り部(語り手)として家族に伝えたいこと
- ◆復興に向かう被災地の方々を動かしているものは何か
- ◆最も印象に残った「人」「もの」「こと」
- ◆自分の心にそっと決意したこと
- ◆その他

②まとめの形式……………新聞・ポスター・プレゼンソフト

③まとめの公開・使用予定……学校祭や小学校でのプレゼンテーション・
事業報告等

④まとめの作成期間……………夏休み～2学期はじめ

(4) 成果と課題～生徒アンケートより

◆今回の被災地視察で、心に残ったことは何でしたか？（3つ選択）

- 1位 山田町立山田中学校……………約70%が選択
- 2位 うのすまいトモス（釜石市）
「いのちをつなぐ未来館」「祈りのパーク」…約50%が選択
- 3位 釜石駅・物産館・市場……………約40%が選択
- 4位 マリンランド陸中……………約30%が選択
- 4位 大槌町文化交流センター「おしゃっち」……約30%が選択
- 5位 町並み（釜石市・大槌町・山田町）……………約20%が選択

◆今回の被災地視察で、あなたの防災や安全に対する意識は高まったと思いますか？

- はい…47人
- いいえ…0人
- 変わらない…2人

◆被災地視察を通して、あなたが自分の家族や山田の地域の方々に伝えたいと思ったのは、なんのことですか？

■「逃げる」「戻らない」

津波は「てんでんこ」・すぐに逃げること・自分の命を一番に優先させることで他の命を助けることができる・まだ津波がきていないからと家に戻らないこと・自然は人の予測を簡単に超える など

■「備える」

いつ、どこで災害が起こるかわからないので、災害に備え、何が必要で何を用意するかを話し合いたい・日頃から訓練をしていてもいざ災害が起るとと思うようにいかない・これからは地域の人達も巻き込んだ避難訓練が大切だと思う など

■「語り継ぐ」

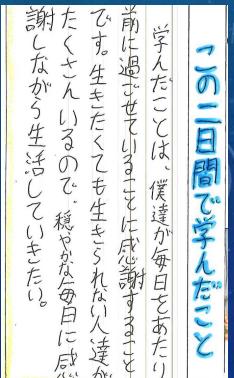
東日本大震災のことを忘れないで、どこにいても油断してはいけない・復興のためにみんな頑張っていたこと・地域の協力が大事ということを伝えたい・震災が起きたけれども、海や自然がとてもきれいなことや、地域の人達はとても親切なことなども伝えたい など

(4) 成果と課題～職員アンケートより

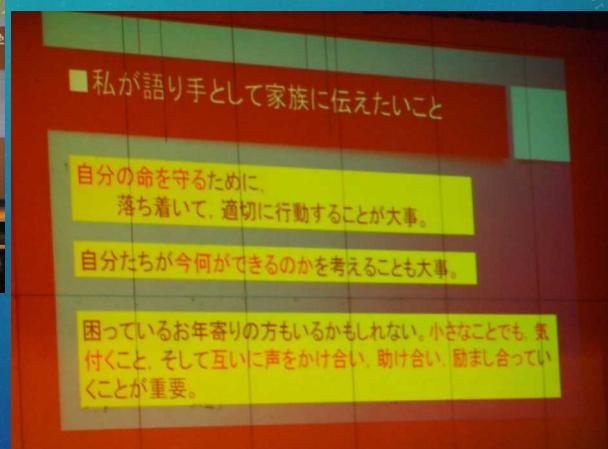
- ◆大変有意義で価値のある時間を過ごすことができた。
 - ◆生徒が自ら考え、行動する場面がたくさんあった。
 - ◆語り部はじめ、出会った方々から直接聞いた話は、生徒にとって大きな財産となった。
 - ◆同行者の方々のサポートが心強かった。
-
- ◆事前学習をもう少し充実させたかった。
 - ◆個々の学びの深さについては、今後のまとめで見えてくるものがあると思う。そこから今後の安全指導、防災教育の在り方について職員の研修を深めていきたい。

5 学校祭での被災地視察プレゼンテーション

(1) 被災地視察のまとめの展示



(2) 被災地視察体験発表の様子



(3) 被災地視察体験発表 ～発表スライドより～

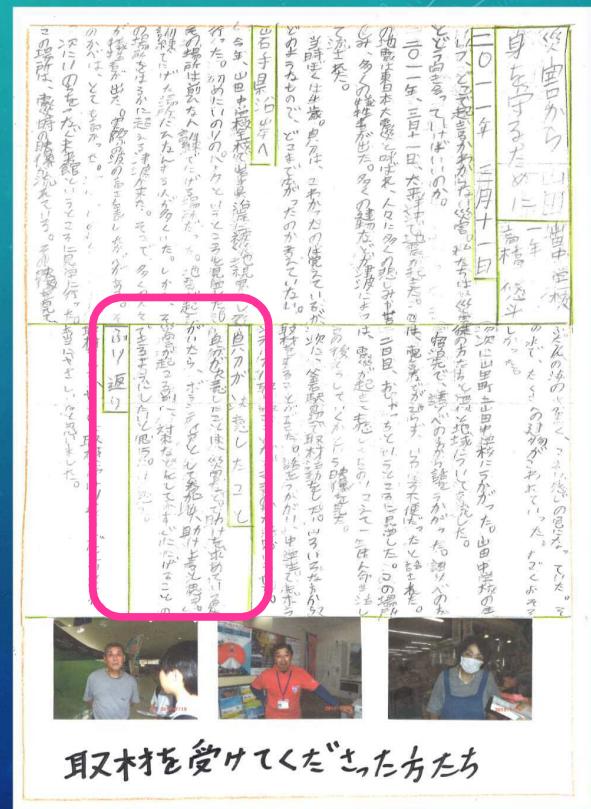
■自分の心にそっと決意したこと

災害で助けを求めている人がいたら、
ボランティアとして参加し、助けたい。

災害が起こる前に対策などをして、
すぐに逃げるようにしたい。

決して忘れてはいけない

震災の出来事を忘れずに、
次の世代に語り継いでいくことが大切



取材を受けてくださった方たち

(4) 被災地視察体験発表～応援メッセージの呼びかけ

中山祭へお越しの皆様へ ～応援メッセージのお願い～

本日は、中山祭へお越しいただき、ありがとうございます。

私たちは、7月に岩手県の山田町立山田中学校を訪問しました。東日本大震災の復興に向け、地域と共に力強く歩む山田町立山田中学校の皆さんから、私たちは、多くの感動と元気をもらってきました。

先日の台風19号では、「山田町立山田中学校」のある山田町内の住宅も被害を受けました。

そこで、今度は私たちが少しでも山田町のみなさんのはげみになればと思い「寄せ書き」を送りたいと考えました。

今日ご来校の皆様も、ぜひ、私たちの想いにご賛同いただければうれしいです。

食堂や体育館入り口、2階展示コーナーにメッセージカードが置いてあります。お名前と、応援メッセージを書いて箱に入れてください。山中生全員の分と合わせて、山田町立山田中学校へ送りたいと思います。

皆様のご協力をどうかよろしくお願ひいたします。

山田中学校全校生徒・職員一同

◆台風19号で被災した山田町山田中学校への応援メッセージの呼びかけ



(4) 被災地視察体験発表～応援メッセージの呼びかけ

◆山田町山田中学校への応援メッセージの寄せ書き



6 避難訓練について

■今年度の避難訓練から【10/28（月）実施】

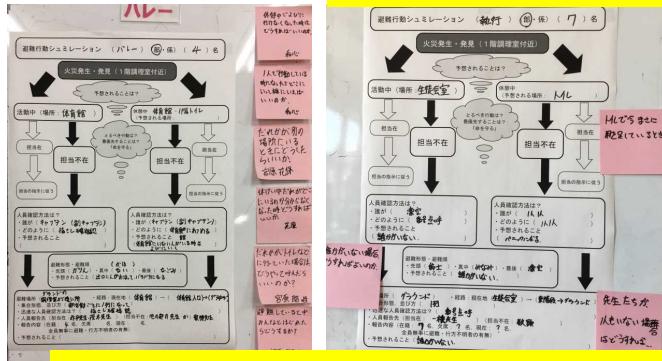
（1）目的

- ①火災時に対処すべき基本動作を身に付ける。
- ②状況に応じた避難経路、避難の仕方を理解し、安全に避難行動がとれるようとする。
- ③火災時の消防への通報の実際を理解する（職員）。

（2）訓練の実際

- ①事前指導（放課後の活動中を想定した避難行動をシミュレーションする）
■1・2年生は部活動、3年生は生徒会や係活動・自学中を想定（9グループ）。各活動場所での避難の仕方や避難経路について確認し、具体的な行動をイメージ。シミュレーションをしてみて生まれた疑問や考えたことは、ふせんにメモしていく。

◆担当教師不在の時は？避難経路は？誰かが別の場所にいたら？避難の順番は？



◆シミュレーションすることで、新たな疑問や意見が生まれ、必要感のある話し合いに。

(2)訓練の実際

②訓練(通報訓練→避難訓練→振り返り集会)

◆職員は、通報の様子を見学



◆体育館玄関、生徒玄関、それぞれの避難経路で避難・集合



◆振り返り集会で成果・課題・改善点を話し合う



(2)訓練の実際

③事後指導(生徒・職員の事後アンケートから)

<成果>

- 普段とは異なる状況での訓練や、事前のシミュレーションを行うことで、自分で考え、判断し、行動する必要性や心構えをもって訓練に参加することができた。(シミュレーションをやっていたので行動しやすかった)
- 学年が上がるにつれ、様々な気付きや提案を記述しており、防災への意識のさらなる高まりを感じた。(こういう訓練をもっとやってみたい)



<課題>

- シミュレーションや振り返り、アンケートから、防災計画を見直す視点が見付かった。(人員確認方法、本部設置場所、表示等)

■今年度の避難訓練から【1/22（水）実施】

（1）目的

- ①休み時間中の地震を想定し、シェイクアウトの確認と実践を行う。
- ②冬季降積雪時の避難経路の確認と、避難の仕方について確認する。
- ③秋の避難訓練を通して、共有すべき情報を再確認し、防災意識のさらなる向上を図る。
- ④フローチャートやアクションカードの使用を通して、職員の防災行動の実践力を高める。

（2）訓練の実際

- ①事前指導（避難訓練の予告、シェイクアウトの方法、避難場所と避難経路、並び方の確認）

※シェイクアウト訓練

～地震の際の安全行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身に付ける訓練

シェイクアウト



まず低く



頭を守り



動かない



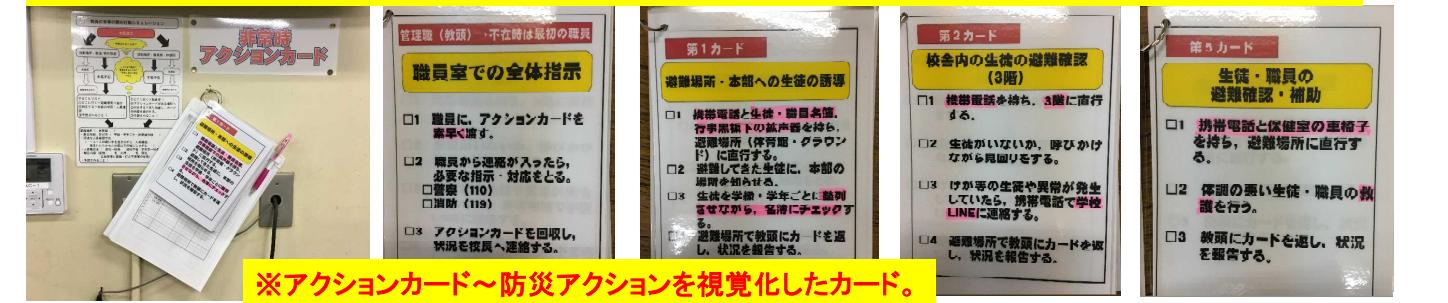
(2)訓練の実際

②訓練（音声ガイダンスによるシェイクアウト訓練→体育館に避難・アクションカードを使った防災活動（職員）→振り返り集会）

◆2校時後の休み時間に訓練を実施。生徒には訓練の時間を知らせないで行った。



◆職員は、生徒の訓練の様子の見守り・避難誘導と、アクションカードを使った防災活動を行った。



(2)訓練の実際

③事後指導(生徒・職員の事後アンケートから)<成果>

・シェイクアウト訓練が「よくできた・できた」と答えた生徒…………全体の86%

・生徒の安全に対する意識のレベルが上がってい、非常にスムーズな動きになっていた。

（小学校の時の訓練よりもできた・今までの経験として、自分の身を守るために、移動時に教科書で頭を守ることを自然と身に付けることができた・今回は頭を守るものを頭から少し離すことを意識して行動できた・中学校最後の避難訓練で、今まで被災地視察などで学んだことを生かして訓練できてよかった）

・職員が生徒の近くにいないときを想定しての訓練や、職員からの指示待ちではなく、自分が考えて周囲を見て行動する力を身に付けていく訓練は、この少人数だからこそ大切だと思った。（いつもとは違う、個々の判断が試された訓練だったと思う・前回の避難訓練よりは迷わずに避難できた）

・次につながる訓練になったと思う。（高校生になっても今までの訓練を頭に入れて生活したい・社会に出ても活用できればいいと思った）

・次年度も防災については深く考えていきたい。

・アクションカードは職員の役割分担が変わったとしても分かりやすくて良かった。

(2)訓練の実際

③事後指導(生徒・職員の事後アンケートから)<課題>

- ・「頭の保護！」など、具体的に指示しないとまだ身を守る行動ができていないところがあった。(休憩時間ということもあって油断してしまっていた・焦って近くの安全な場所でなく、走って教室に向かってしまった)
- ・放送が入った途端ハイテンションになって騒ぐ生徒がいた。(シェイクアウト訓練は、放送をよく聞いていないと動けないとと思うので、放送をよく聞くことの大切さを改めて感じた)
- ・生徒同士が声かけをしながらより良く避難できるようになればもっと良い訓練になっていると思う。(次回は今回よりも早く身の安全を確保したい)
- ・特別支援学級の生徒の動きの確認や、全体への周知。
- ・いろいろなことを想定しての研修の必要性。(集合場所が体育館ではない状況だったら？非常口からバラバラに避難したときの集合や人員確認は？やはり外へ出る訓練も必要では？)

◆防災意識で高まったと感じるもの（生徒アンケートより）

- 災害を知り、適切な意思決定と行動選択をする。（全体の84%）
- 自他の命を尊重する。 （全体の57%）
- 地域社会の安全活動に進んで参加・協力し貢献する。 （全体の31%）

* * * 自分事として、防災に真剣に向き合う姿が見られた * * *

7 結びに

学校安全の三領域(災害安全・生活安全・交通安全)の**災害安全**は、近年の自然災害の甚大さを見ても、ますます重要な領域であると感じる。生徒一人一人が「**災害を知り、適切な意思決定と行動選択ができる**」「**自他の命を尊重することができる**」「**地域社会の安全活動に進んで参加・協力し貢献できる**」ために、全職員で生徒の変容や成長を見取りながら情報を共有し、今後の指導・支援につなげていきたい。

ご静聴ありがとうございました

